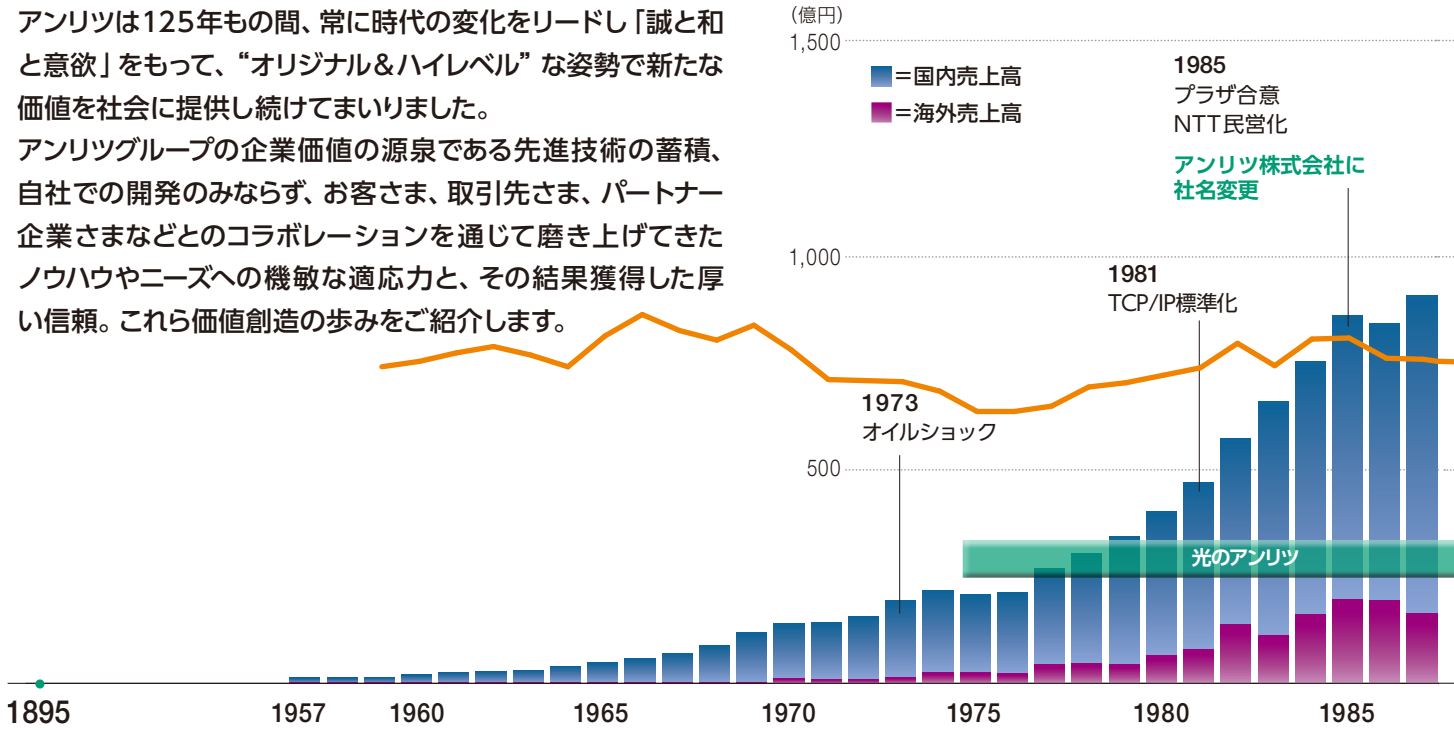
Anritsu Value History

アンリツは125年もの間、常に時代の変化をリードし「誠と和と意欲」をもって、“オリジナル&ハイレベル”な姿勢で新たな価値を社会に提供し続けてまいりました。
アンリツグループの企業価値の源泉である先進技術の蓄積、自社での開発のみならず、お客さま、取引先さま、パートナー企業さまなどとのコラボレーションを通じて磨き上げてきたノウハウやニーズへの機敏な適応力と、その結果獲得した厚い信頼。これら価値創造の歩みをご紹介します。



誠と和と意欲の変革の歴史

黎明期
1895-1930

- 日本の情報通信技術の黎明期を担う
- 関東大震災後の不景気、世界大恐慌、競争激化で経営危機に陥る

有線・無線の統合期
1931-1949

- 共立電機（石杉社）と安中電機製作所の合併で安立電気設立
- 日中戦争勃発により戦争の時代へ（軍需景気）
- 終戦とともに民需への転換で企業再建をはかる

新生安立電気による再興期
1950-1962

- 企業再建法に基づく第2会社方式で再スタート
- 日本復興に向けた通信インフラの整備拡充を支える
- 東京本社オフィスの建設
- 厚木事業所（現在の本社地）の開設

多角化による事業拡大期
1963-1974

- 6事業部体制で事業多角化を推進
- 日本の高度成長を支える通信インフラ拡大を支える
- 公衆電話機の輸出事業スタート

オリジナル&ハイレベルへの挑戦

世界初の無線電話機の実用化を担う（TYK式無線電話機）

日本の有線通信の先駆者となる（自働電話機の製造）

日本初のテレビジョン放送機の開発、製造

磁気録音機（交流バイアス方式）開発

公衆電話機の量産

計測事業の先駆けとなるマイクロ波回線用測定器開発

デジタル伝送向けの測定器開発

PQA事業の先駆けとなる重量選別機開発

創業とM&Aの歴史

1895年（明治28年）
この年、マルコーニが無線電信の実験に成功

1895年（明治28年）
石杉社設立（石黒慶三郎）

→ **1908年（明治41年）**
共立電機電線株式会社
（阿部電線製作所と合併）

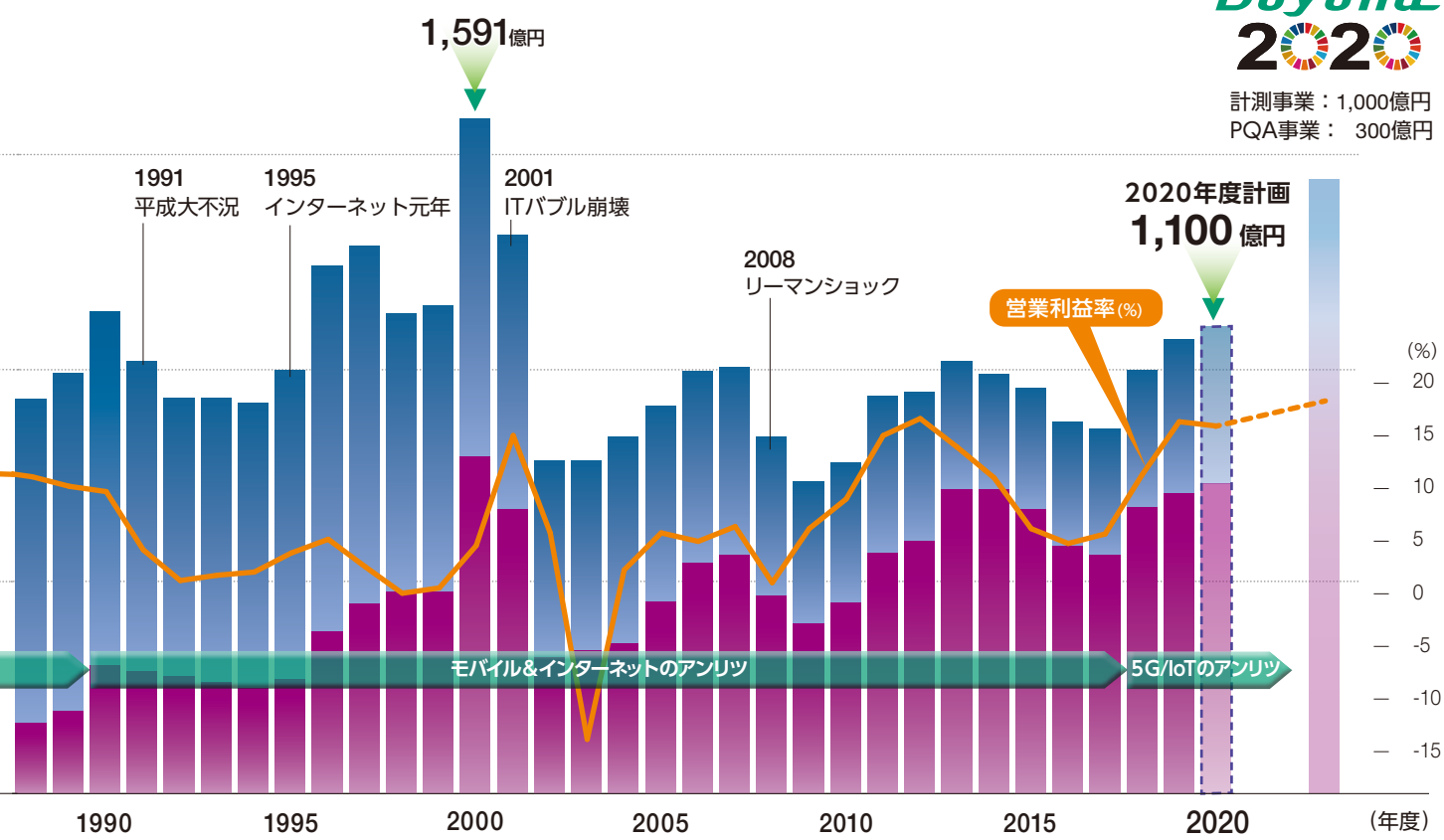
1900年（明治33年）
安中電機製作所（安中常次郎）

→ 合併 **1931年（昭和6年）**
安立電気株式会社

→ **1985年（昭和60年）**
アンリツ株式会社に改称

Beyond 2020

計測事業：1,000億円
PQA事業：　300億円



光のアンリツの時代
1975-1989

- AT&T社にマイクロ波回線用測定装置の大量納入でアメリカに事業基盤を構築
- 光通信網の拡充投資で国内外の光計測事業が拡大
- NTT民営化による通信市場の開放で計測市場が拡大
- 公衆電話機の海外事業が拡大

マルチナショナル企業としての基盤づくり
1990-2000

- 創業100周年：21世紀経営ビジョン「グローバルの顧客に、グローバルの技術で、グローバルの企業に」
- ウィルトロン社買収による海外における開発・製造・販売拠点の統合と拡大
- 事業の選択と集中：ノンコア事業の撤退、譲渡を進める

21世紀グローバルブランドへの道
2001-

- 北米ITバブルで史上最高益と大幅赤字転落
- 経営構造改革(本社機構を厚木市に集中)
- モバイル計測分野のグローバル・リーディングカンパニーへ成長
- ネットテスト社の買収でOSS市場参入
- アジマス社の買収で高度なフェージング技術を獲得

光通信向け測定器(世界初の光パルス試験器OTDR) 開発

カード式公衆電話機

高速大容量光デジタル通信市場向けのSONET/SDH/PDH/ATMアナライザ開発

光増幅器用励起光源(光デバイス)の開発、外販

超高速半導体デバイス(MMIC) 開発

デジタル移動無線用測定器をシリーズ化

世界初のW-CDMA(3G)およびLTEコンフォーマンステストシステム開発

X線検査機

世界初の3GPP規格準拠の5Gチップセット・端末検証用テスタ開発

5Gのプロトコルコンフォーマンステストおよび RFコンフォーマンステストで業界初のGCF認証を取得

1990年
ウィルトロン社買収
(米国カリフォルニア州)

・海外における販売、開発、製造の拠点を統合
　グローバルにビジネスを展開する強固な基盤を構築
・マイクロ波、ミリ波帯の製品ミックスを強化
・ハンドヘルド製品ラインナップの獲得
・顧客基盤の拡大

2005年
ネットテスト社買収
(デンマーク)

・サービスアシュアランス事業を獲得
・ネットワークの品質保証まで含めた
　トータルソリューションの提供を実現

2016年
アジマス社買収
(米国マサチューセッツ州)

・5Gに不可欠なフェージング技術を獲得
・OTAなどのキーソリューションを構成
　可能に